

NITS オンライン動画視聴後の「振り返りシート」 <校内研修シリーズ>

【No123:特異な才能のある児童生徒に対する指導・支援Ⅱ】

Step.1:スライドなどで以下の様な問題を提示し、基礎的な知識の確認を行う。(3問程度)

- (1) 全ての子どもの才能を活かすことを目指す「SEM (全校拡充モデル)」では、通常学級で全員の個別最適な学びを進めながら、才能のある子や学習の進んだ子に対してはどのような指導方法が用いられるでしょうか。
-

- (2) 特異な才能のある児童生徒の指導・支援が「多様性を認め合う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の一環として」行われるならば、具体的に児童生徒の指導・支援はどのような形で実現されるでしょうか。次の下線部に答えを書きましょう。
-

- (3) 次の文中の①・②に当てはまる選択肢を、A または B から 1 つ選び○を付けましょう。

わが国の小学生を対象に、高度な内容の理科教育プログラムを学校外で実施する際に、対象者を応募者から抽選で選ぶなら、才能教育の方法としては、① [A 狭義・B 広義] の才能教育の② [A 早修・B 拡充] に相当する。

Step.2:以下の様な問題を提示し、回答内容についてグループで検討を行ったり、実際の指導例を持ち寄り、再検討したりする。(1問程度)

わたしたちの学校の児童生徒のなかで、「困っている才能のある子」がいるとしたら、具体的にどのような様子なのかという例を第1回の Step.2 で持ち寄りました。今回は、以下の3点について、そのような子どもたちのためにわたしたちには何ができるのかをグループで考えてみましょう。

- ・教室単位でわたしたちが工夫できることはあるか。
- ・あるいは学校全体として取組を行ったり、学校外の適切な指導・支援の機会につなげたりできるか。
- ・すぐに実現は無理でも、理想的な対応として何ができると良いか。